幼児の画面構成（その2）
4・5才児における「お話の絵」の構成力の比較について

浅沼　拓郎
Takuro Asanuma

1．はじめに

幼児の絵の発達で，図式期段階への到達を知らせる徴候として基底線の表出を見る。そして基底線の確立は，天と地の空間認識の第一歩であると考えてよく，幼児の絵画的表現はそれから始まると言える。絵画表現における構成とは，表現内容の諸要素を組み立てて，作品という一つのまとまった世界を作りあげる働きである。前図式期（4才前後）の定説としては，画面に上下，左右，前後を規定する一定の軸はまだ存在しないと言われている。そして画面は自由にその中を動き回れる場所で，運動空間，自由空間とされる。このことは図式期（5才前後）に入ってもなお継続するとされるが，しかし基底線の表出は事物が拠って立つところの場所との自覚からこの時から幼児特有のとらえ方で表現を試み，表出意図や再現意図を十分含みながら諸要素の組み立てに向っていくであろう。本研究はそうした時期にさしかかっている4・5才児を対象として，より詳しくその発達過程の順路をたどろうとするものである。

この度は物語「かもとり　ごんべえ」を同一課題として年令的に構成力の差がどのようであるかを比較し，その実態を調査した。

次に調査の結果を報告する。

2．方　　法

1）調査の対象

岡山市内保育園　1園，　総社市内幼稚園　2園

以上3園の4才児　137名，　5才児　155名を対象とした，総数 292名である。

その内訳は表1に示すとおりである。

表1　調査人数内容

単位　人

園＼年令・性別	4才児 男	4才児 女	4才児 計	5才児 男	5才児 女	5才児 計	合計
L園	10	13	23	16	11	27	50
M園	21	31	52	31	24	55	107
I園	20	42	62	30	43	73	135
合計	51	86	137	77	78	155	292

2）調査時期

昭和57年11月～12月

3）場所

各園，各保育室において

4）実施の方法

民話「かもとり　ごんべえ」の再話を担任が素話として読み聞かせ，幼児には，「ごんべえさんの空を飛んでいるようすをかいてみよう。」と課題を与えた。

資料〈P75〉

5）材料

8ツ切　画用紙(26cm×36cm)，パス，フェルトペン。

6）作品分析

作品の要素から分析観点を選び，次の計測項目を決めた。

① 基底線の有・無
② 主題の位置
(ア) 主題（ごんべえ）の位置（上・中・下）
(イ) 主題（ごんべえ）の位置（左・中・右）
③ 鳥（かも）の表出数
④ 鳥（かも）の形態（パターン）
⑤ 綱のひろがり（パターン）
⑥ 家の形（パターン）
⑦ 山の表出
⑧ 池の表出
⑨ 畑の表出
⑩ 木の表出
⑪ 花の表出
⑫ 太陽の表出
⑬ 雲の表出

3．調査結果及び考察

1）基底線の表れ方について

表2　基底線の表れ方

単位　人（%）

年令 / 項 / 性別		4才児 ない	4才児 ある	4才児 計	5才児 ない	5才児 ある	5才児 計
男	頻	44	7	51	49	28	77
	%	86.27 (37.29)	13.73 (36.84)		63.64 (45.79)	36.36 (58.33)	
女	頻	74	12	86	58	20	78
	%	86.05 (62.71)	13.95 (63.16)		74.36 (54.21)	25.64 (41.67)	
合計		118	19	137	107	48	155
	%	86.13	13.87		69.03	30.97	

基底線表出の有・無については表2に示すとおりである。

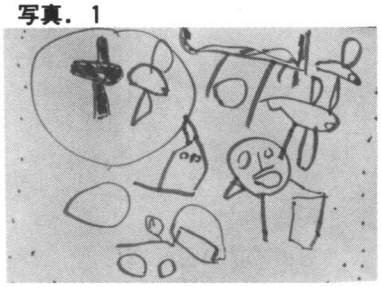
4才の表出は13.87%，5才では30.97%と表出率の高まっていることがわかる。

しかし，この項目の調査では難点も多い。先ず「話」が空中を主場面とすることであった。(筆者の意図的課題ではあるが。)

そのため4才児では，写真1，2に見られるように画面の上下関係を意識しながらも，なお主題はカタログ的な構成が多い。それ故に，顕著な基底線の判定に難しさがあった。そのことから4才では，まだ基底というはっきりした基準（軸）を持たず線・面のあいまいさで処理していくものと思われる。

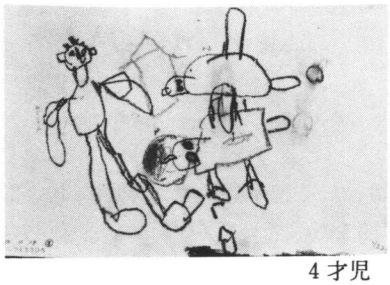
5才児では課題の意識が高まってくるた

写真．1



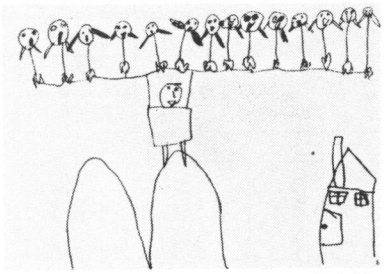
4才児

写真．2



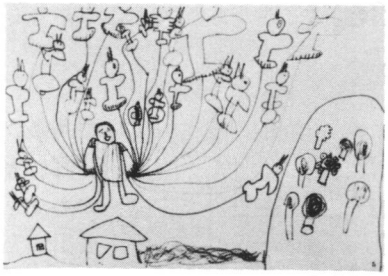
4才児

写真．3



5才児

写真．4



５才児

め空中に浮ぶ場面が多い。顕著な表出（横線記入）は 30.97%であるが，他に画用紙の下縁を基底と意図していると一目で分るものも多い。そして，写真，３，４に見られるように家，山，池・川，木，などの諸要素を付加しながら個人差はあるものの構成力をつけていることがわかる。

２）主題の位置

(ア) 上下関係について

表３　主題の表現位置の比較（上下）

年令／項目／性別	4 才 児 なし	上	中	下	計	5 才 児 なし	上	中	下	計
男 頻	9	2	27	13	51	7	10	32	28	77
男 %	17.65 (56.25)	3.92 (15.38)	52.97 (38.57)	25.49 (34.21)		9.09 (70.00)	12.99 (66.67)	4..56 (41.03)	36.36 (53.85)	
女 頻	7	11	43	25	86	3	5	46	24	78
女 %	8.14 (43.75)	12.79 (84.62)	50.00 (61.43)	29.07 (65.79)		3.85 (30.00)	6.41 (33.33)	58.97 (58.97)	30.77 (46.15)	
合計	16 11.68	13 9.49	70 51.09	38 27.74	137	10 6.45	15 9.68	78 50.32	52 33.55	155

主題の上下に占める位置については表３に示すとおりである。

４才，５才とも画面中段部分が高率で，４才が 51.09%，５才は 50.32% と約半分ずつを占めている。次いで下段部分が多く，４才が27.74%，５才が33.55%である。上段部分は少なく，４才で9.49%，５才が9.68%となっており，両年令とも全く似た傾向を示している。

(イ) 左右関係について

表４　主題の表現位置の比較（左右）

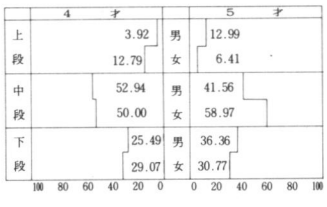
年令／項目／性別	4 才 児 なし	左	中	右	計	5 才 児 なし	左	中	右	計
男 頻	9	8	23	11	51	8	11	44	14	77
男 %	17.65 (64.29)	15.69 (34.78)	45.09 (32.39)	21.57 (37.93)		10.39 (72.73)	14.29 (40.74)	57.14 (50.57)	18.18 (46.67)	
女 頻	5	15	48	18	86	3	16	43	16	78
女 %	5.28 (35.71)	17.44 (65.22)	55.81 (67.61)	20.93 (62.07)		3.85 (27.27)	20.51 (59.26)	55.13 (49.43)	20.51 (53.33)	
合計	14 10.22	23 16.79	71 51.82	29 21.17	137	11 7.10	27 17.42	87 56.13	30 19.35	

主題の左右に占める位置については表４に示すとおりである。

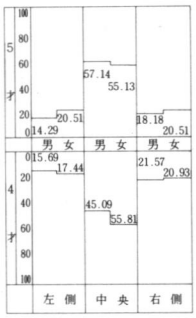
４才，５才とも画面中央部分が高率である。

４才は 51.82%，５才は 56.13%とやや４才を上回る。次いで右側寄りが左側より多く両年令とも似た傾向を示している。

表５　(ア) 上下関係図



(イ) 左右関係図



主題の位置（上下・左右関係）について，画面上を概観し図示したものが表５(ア)，(イ)である。

４・５才ともに画面中央部分に集中させていることがわかる。

人間の眼は視的対象

に垂直と水平の二次的基準を与えバランスを構成すると言われるが，バランスを確立するプロセスの中で幼児の眼も構成的に軸となり易い中央，（視的優位性がある） また下半分を感覚的につかもうとする姿ではなかろうか。

3）鳥の表出数について

表6　鳥　の　数

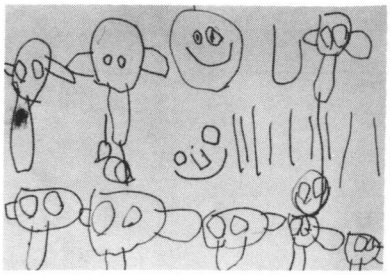
年令 項目 性別		4才児 なし	10羽以下	20羽まで	30羽まで	40羽まで	40以上	計	5才児 なし	10羽まで	20羽まで	30羽まで	40羽まで	40以上	計
男	頻	13	36	1	1	0	0	51	11	46	15	2	3	0	77
	%	25.49	70.59	1.96	1.96	0.00	0.00		14.29	59.74	19.48	2.57	3.90		
		(38.24)	(37.89)	(14.29)	(100.00)	(0.00)	(0.00)		(55.00)	(51.69)	(42.86)	(50.00)	(50.00)	(0.00)	
女	頻	21	59	6	0	0	0	86	9	43	20	2	3	1	78
	%	24.42	68.60	6.98	0.00	0.00	0.00		11.54	55.13	25.64	2.56	3.85	1.28	
		(61.76)	(62.11)	(85.71)	(0.00)	(0.00)	(0.00)		(45.00)	(48.31)	(57.14)	(50.00)	(50.00)	(100.00)	
合計		34	95	7	1	0	0	137	20	89	35	4	6	1	155
		24.82	69.34	5.11	0.73	0.00	0.00		12.90	57.42	22.58	2.58	3.87	0.65	

鳥の数も画面構成に大きなかかわりを持つが，表出は表6に示すとおりである。

4才においては，形が不明で計測不能が24.82%であった。10羽以下の表出がほとんどで 69.34%を占めており，それ以上はまれである。

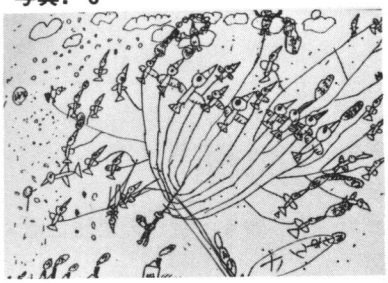
5才児においては計測不能は減り12.90%であった。10羽以下は57.42%，20羽までは 22.58%，30羽までが2.58%，40羽までが3.87%で，40羽以上は極僅かである。しかし10羽～20羽の表出者は約80%にも及び構成力の向上を知ることができる。写真5は4才として計測範囲の作品であり，写真6は5才としてすぐれていると思う作品の一つである。

写真．5



4才児

写真．6



5才児

4）鳥の形態について

表7　鳥　の　形　態

年令 項目 性別	形態	4才児 なし	包括線	角形	丸形	頭足	2部分	3部分	4部分	5部分	6部分	計
男	頻	16	2	0	2	6	14	7	4	0	0	51
	%	31.37	3.92	0.00	3.92	11.76	27.45	13.73	7.84	0.00	0.00	
		(48.48)	(20.00)	(0.00)	(20.00)	(31.58)	(38.89)	(36.84)	(80.00)	(0.00)	(0.00)	
女	頻	17	8	5	8	13	22	12	1	0	0	86
	%	19.77	9.30	5.82	9.30	15.12	25.58	13.95	1.16	0.00	0.00	
		(51.52)	(80.00)	(100.00)	(80.00)	(68.42)	(61.11)	(63.16)	(20.00)	(0.00)	(0.00)	
計		33	10	5	10	19	36	19	5	0	0	137
		24.09	7.30	3.65	7.30	13.87	26.28	13.87	3.65	0.00	0.00	

年令 項目 性別		5才児 なし	包括線	角形	丸形	頭足	2部分	3部分	4部分	5部分	6部分	計
男	頻	10	2	0	2	1	10	27	18	5	2	77
	%	12.99	2.60	0.00	2.60	1.29	12.99	35.06	23.38	6.49	2.60	
		(52.63)	(100.00)	(0.00)	(50.00)	(100.00)	(37.04)	(40.30)	(64.29)	(100.00)	(100.00)	
女	頻	9	0	0	2	0	17	40	10	0	0	78
	%	11.54	0.00	0.00	2.56	0.00	21.79	51.28	12.82	0.00	0.00	
		(47.37)	(0.00)	(0.00)	(50.00)	(0.00)	(62.96)	(59.70)	(35.71)	(0.00)	(0.00)	
計		19	2	0	4	1	27	67	28	5	2	155
		12.26	1.29	0.00	2.58	0.65	17.42	43.22	18.06	3.23	1.29	

鳥の形態については表7に示すとおりである。形態は多様であったため9種の類型に分け判定した。

4才では，表出の無い者24.09%，また判定不能（包括7.30%，角形3.65%，丸形7.30%）とした者18.25%，合わせた表現未熟者は42.34%であった。これに対し表出者は（頭足13.87%，2部分26.28%，3部分13.87%，4部分3.65%）57.67%であった。

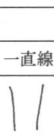
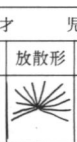
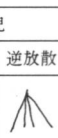
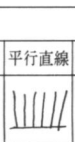
5才では，表出の無い者12.26%，また判定不能（包括1.29%，角形0，丸形2.58%）とした者3.87%，合わせて未熟者は16.13%となっている。これに対し表出者は（頭足0.65%，2部分17.42%，3部分43.22%，4部分18.06，5部分3.23%，6部分1.29%）83.87%となっている。

このことから4才における表現未熟者の中には前図式期の段階にある者も多く，また，鳥(かも）の形がイメージとしてとらえられない者も多数であると考えられる。

5才に至ると表現未熟者は激減しており，また鳥としての形のとらえ方，知的処理による部分の描き込みなど，表現力の向上の著しいことを示している。

5）綱の広がりについて

表8　綱の広がり

年令 項目 形態 性別	4才児							
	綱なし	輪	一直線	枝形	放散形	逆放散	平行直線	計
								
男 頻	24	5	12	4	2	1	3	51
男 %	47.06 (42.86)	9.80 (38.46)	23.53 (40.00)	7.84 (40.00)	3.92 (10.53)	1.96 (25.00)	5.88 (60.00)	
女 頻	32	8	18	6	17	3	2	86
女 %	37.21 (57.14)	9.30 (61.54)	20.93 (60.00)	6.98 (60.00)	19.77 (89.47)	3.49 (75.00)	2.33 (40.00)	
計	56	13	30	10	19	4	5	137
	40.88	9.49	21.90	7.30	13.87	2.91	3.65	

年令 項目 性別	5才児							
	綱なし	輪	一直線	枝形	放散形	逆放散	平行直線	計
男 頻	21	0	10	10	30	1	5	77
男 %	27.27 (56.76)	0.00	12.99 (47.62)	12.99 (66.67)	38.96 (46.15)	1.30 (16.67)	6.49 (45.45)	
女 頻	16	0	11	5	35	5	6	78
女 %	20.51 (43.24)	0.00	14.10 (52.38)	6.41 (33.33)	44.87 (53.85)	6.41 (83.33)	7.69 (54.54)	
計	37	0	21	15	65	6	11	155
	23.87	0.00	13.55	9.68	41.94	3.87	7.10	

主題と綱の関連，綱の広がりについては表8に示すとおりである。

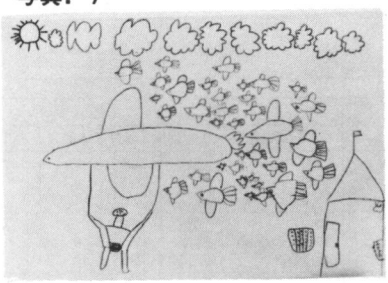
4才で表出の無い者 40.88%，判定不能（輪9.49%），合わせた表現未熟者は50.37%であった。

これに対して表出者は（一直線21.90%，枝形7.30%，放散形13.87%，逆放散2.91%，平行直線3.65%）49.63%であった。

5才で表出の無い者23.87%，判定不能は無い。

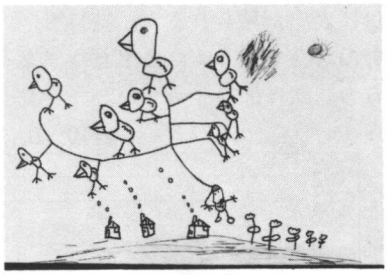
これに対し表出者は（一直線 13.55%，枝形

写真．7



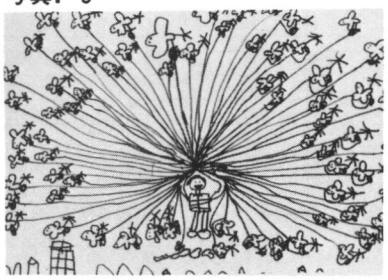
5才児

写真．8



5才児

写真．9



5才児

9.68%，放散形41.94%，逆放散3.87%，平行直線7.10%）となっている。

綱の表出は，この作品の構成上重要なポイントとなるが，表現未熟は先ず基底感の欠如による空間意識の不足があげられる。先ずは，鳥の姿，空に浮び上がる主題（人物）の姿，そのイメージによる画面への配置により綱の広がりは多様化されている。配置計画（構成力）の不十分の場合は一直線形（写真７）や枝形（写真８）が多く，次第に放散形に移行するものと思われる。従って４才で放散形の表出があれば可成りの構成力があると言える。

６）家の形について

表９　家の表現

年令 項目 / 性別	4才児 なし	包括線	2部分	3部分	4部分	計
形態						
男 頻	42	1	6	2	0	51
男 %	82.35 (36.52)	1.96 (50.00)	11.76 (35.29)	3.92 (66.67)	0.00 (0.00)	
女 頻	73	1	11	1	0	86
女 %	84.88 (63.48)	1.16 (50.00)	12.79 (64.71)	1.16 (33.33)	0.00 (0.00)	
計	115	2	17	3	0	137
	83.94	1.46	12.41	2.19	0.00	

年令 項目 / 性別	5才児 なし	包括線	2部分	3部分	4部分	計
男 頻	35	0	12	23	7	77
男 %	45.46 (55.56)	0.00	15.58 (38.71)	29.87 (46.94)	9.09 (58.33)	
女 頻	28	0	10	26	5	78
女 %	35.90 (44.44)	0.00	24.36 (61.29)	33.33 (53.06)	6.41 (41.67)	
計	63	0	31	49	12	155
	40.65	0.00	20.00	31.61	7.74	

家の表出については表９に示すとおりである。

４才で表出の無い者 83.94%，判定不能は1.46%であった。表出者は（２部分 12.41%，３部分2.19%）14.6%であった。

５才で表出の無い者 40.65%，判定不能は無く，これに対し表出者は（２部分20%，３部分 31.61%，４部分7.74%）59.35%であった。

このことから４才においては基底線の表れ方と関連が大きく空間意識（天地間）の弱さから，それに伴って内容的付加が及ばないと言えよう。

５才では課題場面（中空）の把握ができることから構図（天と地）がはっきりとしており，内容要素としての家も加える余裕ができ，一層内容の豊かな表現に移るようである。

７）山，池，畑，木，花，太陽，雲の表出について

これらの項目の中，４才においては，雲，太陽の表出が多い。それに次いで池，女子は花を表出した者もある。５才においては，それぞれの項目に表出が見られるが，特に雲，太陽が多い。これは，この物語の内容要素となった池，畑などの言語でとらえた表出とは異なる意味があり，上下関係（天地）を固定しようとする幼児特有の認識にほかならない。

表10　山，池，畑，木，花，太陽，雲の表出

年令 項目 / 性別	4才児 山 ない	山 ある	池・川 ない	池・川 ある	畑 ない	畑 ある	木 ない	木 ある	花 ない	花 ある	太陽 ない	太陽 ある	雲 ない	雲 ある	
男 頻	51	0	50	1	50	1	51	0	50	1	46	5	40	11	51
男 %	100.00	0.00	98.04	1.96	98.04	1.96	100.00	0.00	98.04	1.96	90.20	9.80	78.43	21.57	
女 頻	85	1	75	11	81	5	84	2	75	11	67	19	56	30	86
女 %	98.84	1.16	87.21	12.79	94.19	5.81	97.69	2.33	87.21	12.79	77.91	19.09	65.12	34.88	
計	136	1	125	12	131	6	135	2	125	12	113	24	96	41	137

年令 項目 / 性別	5才児 山 ない	山 ある	池・川 ない	池・川 ある	畑 ない	畑 ある	木 ない	木 ある	花 ない	花 ある	太陽 ない	太陽 ある	雲 ない	雲 ある	
男 頻	58	19	71	6	72	5	69	8	76	1	38	39	42	35	77
男 %	75.32	24.68	92.20	7.80	93.51	6.49	89.61	10.39	98.70	1.30	49.35	50.65	54.55	45.45	
女 頻	68	10	67	11	70	8	69	9	73	5	46	32	36	42	78
女 %	87.18	12.82	85.90	14.10	89.74	10.26	88.46	11.54	93.59	6.41	58.97	41.03	46.15	53.85	
計	126	29	138	17	142	13	138	17	149	6	84	71	78	77	155

4．ま と め

4・5才という，幼児画の発達段階では前図式期から図式期への過渡期をとらえ，その移行のありさまを精査するため，両年令に同一課題を与え比較観点をしぼって見た。勿論，個人差も大きい時であり，また，計測項目も単に数量的処理だけでは不当と思うものも多々あったがトータルとして，その傾向に特に眼を向けた。

これらの比較により推察できるのは，次のことがらである。

1．発達の過程で，基底の確立は画面構成に大きく影響する。4才ではまだ，軸の意識を持たない画面が描かれやすい。

2．構成（構図）の基本はやはり水平軸（基底線）に対する垂直軸（二次的基準）のバランス感が出発点であり，初歩の段階としては最も安定した画面の中央部分に集中性があるようだ。

3．表現内容から推察できることは，包括形，丸形などを描き続ける幼児は，未だ方向性が乏しいと言える。

4．直線の交差がしっかり描けるようになることが方向性を見出す発端であり，そのことは作品の中で綱の広がりの順序から察することができる，直線，平行直線，枝形，放散形と絵画的表現は向上する。

5．鳥・家などは初期はスクリブルであり次第にダイアグラムに移行する，結合の方法は個別性があるものの殆んどは様式化されてくる。

6．太陽・空は話の内容とかかわりなく，4・5才では表れることが多く，ここに概念化されつつある空間意識を知ることができる。

7．「かもとり　ごんべえ」は造形要素を多く持つすぐれた教材であり，4，5才児への扱い方によっては個々の造形性の発達程度を知ることができる。

本調査は中国短期大学研究補助金で行う一部であり今後も継続するものである。

なお調査のためこころよく資料提供に御協力いただいた，岡山市蓮昌寺保育園，総社市立南幼稚園，及び井尻野幼稚園，なお参考作品の提供をいただいた岡山市立岡南幼稚園の園長先生はじめ諸先生に深甚な感謝の意を表します。

資料

かもとり　ごんべえ

昔，あるところに，ごんべえさんというおじいさんがいました。このおじいさんは，毎日，朝早く起きて，かもを取ることを仕事にしていました。

ある日，おじいさんは，2羽，3羽とるのはめんどうだと，たくさんとる方法を考えました。

それは，わなをたくさんしかけることです。おじいさんは100のわなをしかけました。

「よし，これで100羽一度にとれるぞ」と得意になって，かものかかるのを待っていました。

かもが飛んできました。1羽かかりました。2羽めもかかりました。3羽，4羽，5羽，とうとう99羽かかりました。

「しめた，大漁だ」と，おじいさんは大喜び，そして，なわのひものたばねたもとを引っぱると，かもはびっくりして，羽を大きく動かして，飛びたちました。

大変です。たばねたひもを持ったおじいさんは，かもといっしょに空に舞いあがってしまいました。

「助けて，助けてくれ」と，いくら叫んでも，空の上では，だれも助けてくれません。

畑も，家も，池も，だんだん小さく見えます。高い高い空を飛んでいます。

おじいさんは，わなを離しては大変と，しっかりつかまって，かもといっしょに飛んでいきました。